



平成23年1月26日

各 位

株式会社雪国まいたけ  
代表取締役社長 大平喜信  
(コード番号 1378 東証第2部)  
問合せ先 取締役兼執行役員  
管理本部長 山本忠義  
(TEL. 025-778-0111)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成22年10月29日の平成23年3月期2四半期決算発表時に公表した平成23年3月期(平成22年4月1日～平成23年3月31日)の業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 平成23年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(金額の単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	30,000	3,190	2,600	1,555	円 銭 42 16
今回発表予想(B)	27,800	2,100	1,500	1,120	30 44
増減額(B-A)	△2,200	△1,090	△1,100	△435	—
増減率(%)	△7.3	△34.2	△42.3	△28.0	—
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	26,140	2,699	2,004	1,143	32 20

#### 2. 平成23年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(金額の単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	28,500	2,380	1,900	1,040	円 銭 29 27
今回発表予想(B)	25,500	1,260	800	580	15 76
増減額(B-A)	△3,000	△1,120	△1,100	△460	—
増減率(%)	△10.5	△47.1	△57.9	△44.2	—
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	24,402	2,179	1,676	1,002	28 23

### 3. 修正の理由

販売面では、当第2四半期までは概ね計画通りに推移しましたが、第3四半期に入ると猛暑などの影響で不足気味だった野菜の流通量が増加し、相場が下落傾向となる中で、茸の販売価格もそれに引きずられる形となりました。消費動向も、依然として根強い節約志向から価格訴求が強まる厳しい販売環境が続いたことで、売上高が計画を割り込む見通しとなりました。

また、当社グループは、平成22年5月10日に発表しました通り、当期においてぶなしめじの増産に向けて、五泉バイオセンターの一部と第5バイオセンターにおいて順次生産設備の入替えを進めてまいりました。当第3四半期より、新商品「雪国しめじ」の販売を開始しており、段階的に出荷量を増加させていく計画ですが、生産設備の入替え、調整に伴い一時的に生産能力が低下したことと、新菌・新設備での生産の為初期段階において茸品質の安定化に時間を要したことで生産量が減少し、売上高および仕掛品在庫が計画比で減少する見通しであります。さらに設備の入替えに伴う人件費の増加や一時的な生産効率の低下により、製造コストにつきましても計画比で増加する見通しとなりました。

また、当社グループは、平成22年2月17日に公表しました「雪国まいたけ2010年—2012年中期経営計画」に基づき、様々な成長戦略を進めており、当期におきましては、循環型農業団地構想の実現に向けた野菜の露地栽培実験の開始、カット野菜の拡販に向けた滋賀パッケージセンターの設置（平成23年1月17日稼働開始）、中国および米国における茸事業の推進など多くの事業戦略を同時平行的に進めており、これらの実現に向けた人材獲得、営業体制強化等の先行投資支出が嵩み、販売費及び一般管理費が増加し利益を押し下げる要因となりました。

ぶなしめじについては既に品質安定化の目途が立ち、間もなく計画通りの生産体制に回復する見込みですが、第3四半期での落ち込みを挽回するまでには至らず、売上高および利益ともに前回発表した予想数値を下回る見込みとなりましたので、通期の連結業績予想を修正いたします。

通期個別業績予想につきましては、連結と同様の理由であります。

本資料に掲載されている業績予想等は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる可能性があります。

以 上